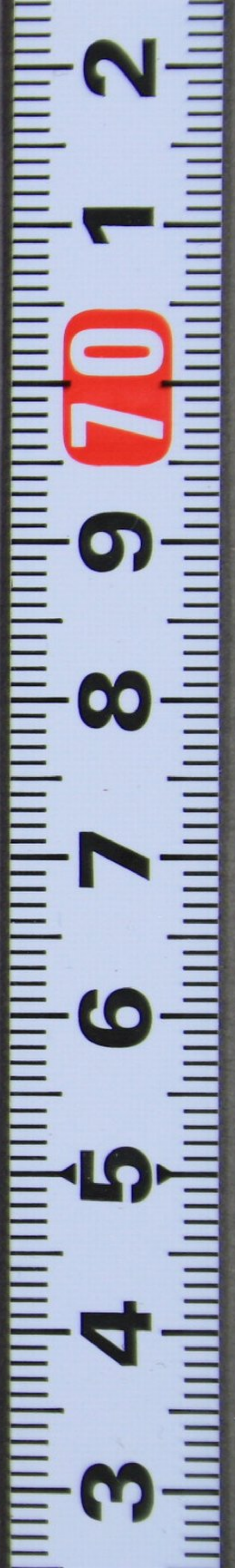


葵

栴

五









あふひ

けまきつがなめりて名とちり  
源氏元二支より元二支まで  
のこまんとしつ源氏のたのり  
しめふひ上とらふとあも乃

すうつとびんはちあふひの車  
のこまんとわらふひちた葉の  
こまんとは車とくちらそふ  
まねのあなまうりの車  
わらふひとらふひとらふ







法う書

ひまをひかると初と成りあり  
名とちり源氏九二歳乃  
九月より元口支れ及まを  
の事平入りよりと成れ

かひはのほむかやむらう  
とちりてりせ入るりあまよ  
村にあひあもたに非く文  
よそおひしあまを源氏  
あまのちりてのくまやそ



海つりあふ時と毎のささり  
のほふれをハニ端の古き奇  
ま引合せらるるをえけはを二名  
ハ松うらうと鶴ともりか

海つりあふ

神うらハきりーれ  
おとあきいものを  
あうあまあええ

あまのこ

神あ



